



平成14年9月13日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所 第19回定期検査の実施について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、電気出力110万キロワット）は、9月16日から約2ヶ月の予定で第19回定期検査を実施します。

定期検査を実施する主な設備は次のとおりです。

- （1）原子炉本体
- （2）原子炉冷却系統設備
- （3）計測制御系統設備
- （4）燃料設備
- （5）放射線管理設備
- （6）廃棄設備
- （7）原子炉格納施設
- （8）蒸気タービン設備
- （9）非常用予備発電装置

なお、10月中旬に予定している定期検査の最終段階である調整運転から、定格熱出力一定運転※を実施する予定です。

※定格熱出力一定運転とは：

定格熱出力一定運転とは、原子炉で発生する熱（原子炉熱出力）を原子炉設置許可で認められた最大値である定格熱出力で一定に保って運転する方法であり、冬季のように海水温度が低い時期には発電効率が良くなり、従来の定格電気出力一定運転に比べ、発生する電気が増加する運転方式です。

以上

東海第二発電所 第19回定期検査の概要

1. 主要な工事

①9×9燃料の採用

【概 要】(別紙1参照)

- ・ 燃料の効率的な使用及び使用済燃料の発生量の低減を図るため、燃料棒配列を9行9列とし、太径のウォータ・ロッド2本を配した構造を有する9×9燃料(A型)及び角管ウォータ・チャンネル1本を配した構造を有する9×9燃料(B型)を採用する。

②新型制御棒の採用

【概 要】(別紙2参照)

- ・ 制御棒取替本数の削減による廃棄物低減等を図るため、ボロンカーバイド粉末を制御材とする制御棒に加え、ハフニウムフラットチューブを制御材とする制御棒を採用する。

③残留熱除去系蒸気凝縮系の機能削除工事(浜岡1号機配管破断対策)

【概 要】(別紙3参照)

- ・ 残留熱除去系の機能の一つである蒸気凝縮配管を切り離すことにより、蒸気凝縮系の機能を削除する。

④定格熱出力一定運転関連工事

【概 要】

- ・ 定格熱出力一定運転を導入するにあたり、運転管理の信頼性をより一層向上させるため、中央制御室に原子炉熱出力を常時表示する原子炉熱出力表示器を設置する。

尚、従来から予定しておりました原子炉炉内構造物のシュラウドについても、点検を予定しております。

2. 燃料取替計画

燃料集合体全数764体のうち、160体(うち9×9燃料116体)を取替える予定です。

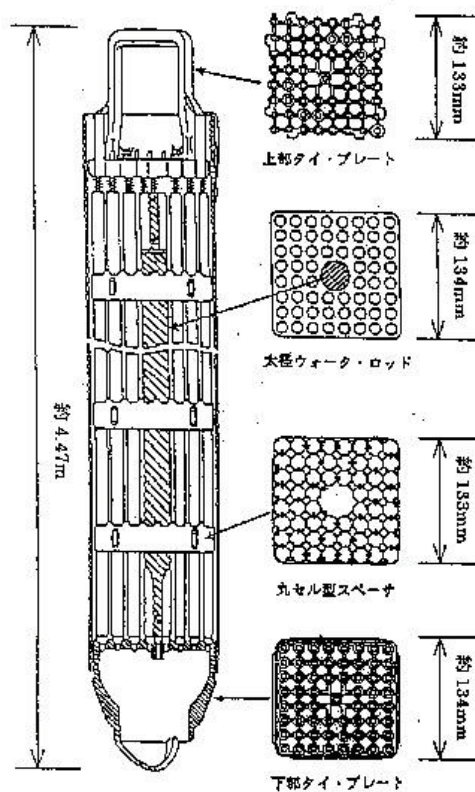
3. 運転再開予定

原子炉起動・臨界	平成14年10月中旬
発電再開（調整運転開始）	平成14年10月中旬
定期検査終了（定常運転再開）	平成14年11月中旬

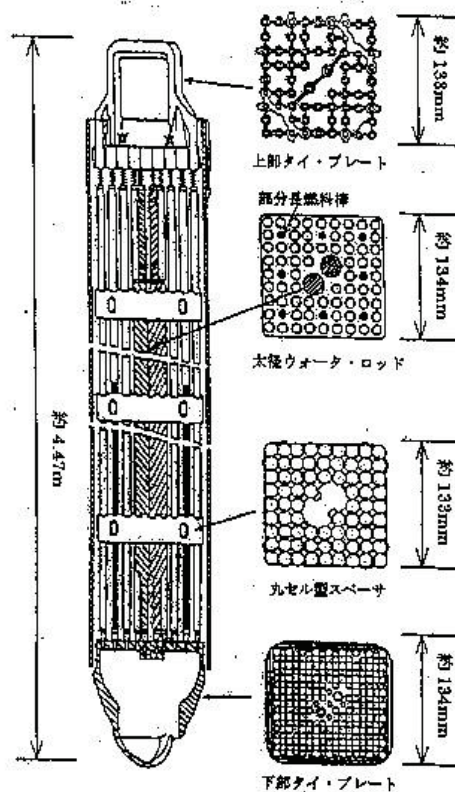
以上

添付資料

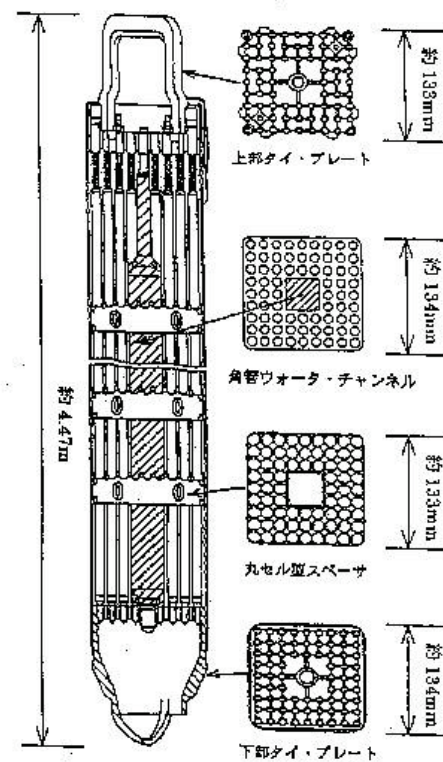
- 別紙1 9×9燃料の概略構造図
- 別紙2 制御棒概略図
- 別紙3 残留熱除去系蒸気凝縮系の機能削除工事



高温型 8×8 燃料

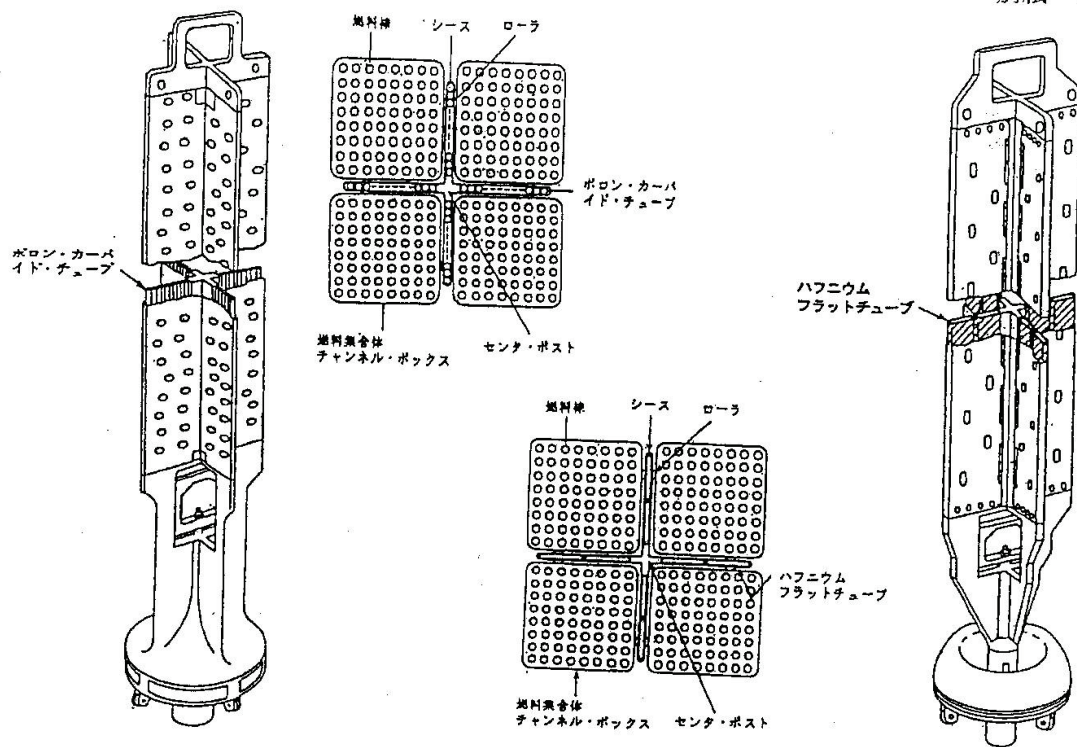


9×9 燃料 (A型)



9×9 燃料 (B型)

9×9 燃料の概略構造図

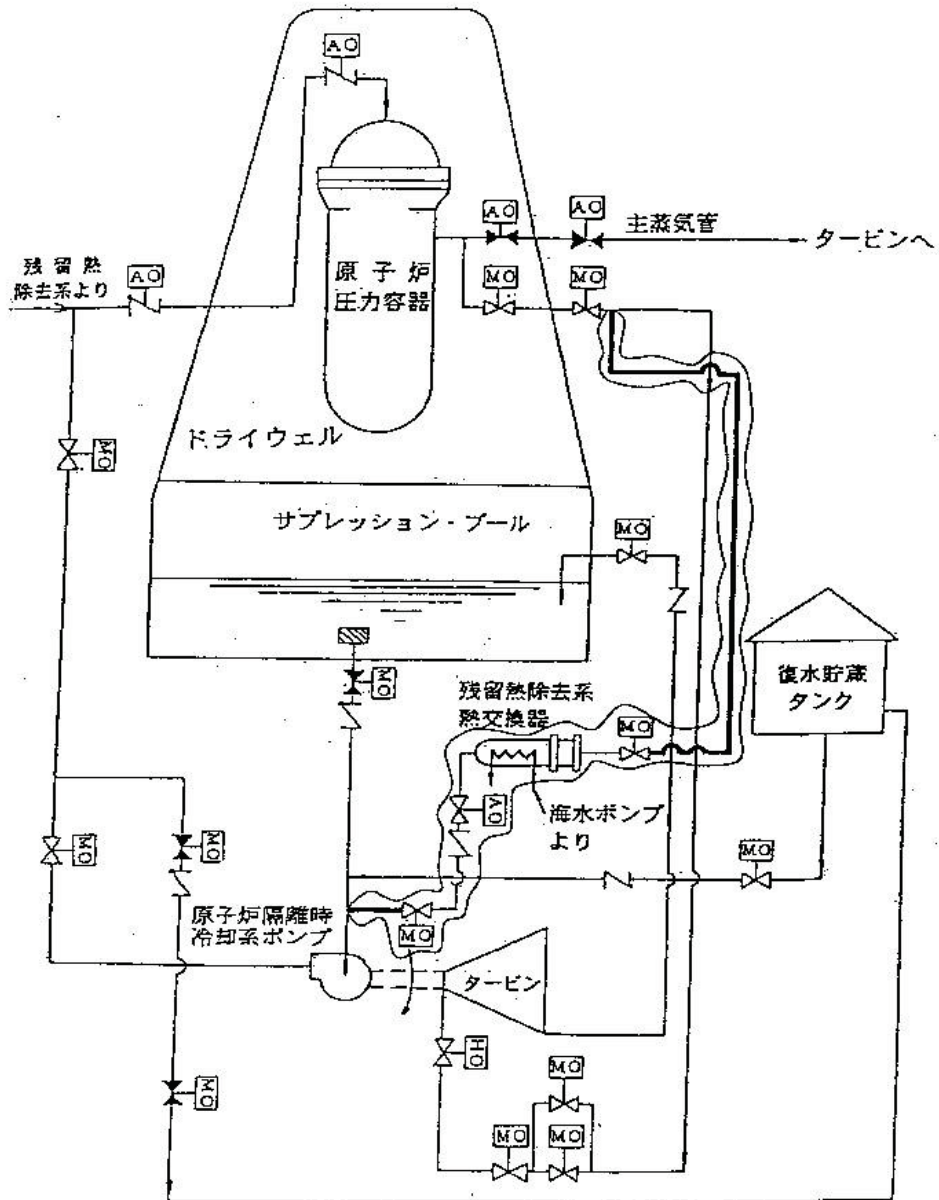


＜ボロンカーバイド型＞
(従来型)

＜ハフニウムフラットチューブ型＞
(新型)

制御棒概略図

残留熱除去系蒸気凝縮系の機能削除工事



○ : 蒸気凝縮系を示す。

本系統はA系、B系の2系統ある。

— : 機能削除範囲を示す。